

台湾に海外初のたんぱく質調整米の製造拠点を設ける木徳神糧

木徳神糧は、東京に本社を置く米穀製品専門の大手商社であり、主に米穀、飼料、鶏卵、ヘルスケア事業の4つの事業を展開している。その内、ヘルスケア事業では、慢性腎臓病(CKD)患者向けのたんぱく質調整米を製造販売しており、2015年には台湾に海外拠点として初めて当製品の製造拠点を設けた。現地企業との連携を通して国内向けニーズを満たすとともに、将来的には中国大陸への展開の足掛かりとしても台湾拠点を活用する予定である。今回は、木徳神糧の台湾子会社である台湾木徳生技(股)有限公司の宿谷総経理を訪ね、台湾拠点設立の経緯や市場環境、今後の事業展望についてお話を伺った。



台湾木徳生技(股)有限公司 宿谷勉総経理

一 貴社の事業概要について

当社は、米穀、飼料、鶏卵、付加価値商品(ヘルスケア)の4つの主要事業を展開しており、中でも米穀事業は当社の最大事業です。米穀流通事業としては日本有数の事業規模を有しており、7&iグループのお弁当やおにぎりに使われるお米の約7割を当社が供給しています。海外展開についても積極的に進めており、アメリカ、中国、タイ、ベトナムに拠点を構え、2015年に台湾拠点を設けました。ベトナム以外は現地米の調達及び日本米の営業拠点として運営しており、中国では日本の飲食チェーン店への日本米の販売を行っています。ベトナムでは現地で日本米を生産し、集荷、精米、販売などを行っています。

近年米穀事業の付加価値の向上を目指し、一般的な米穀の流通以外に、ヘルスケア事業として慢性腎臓病(以下、CKD)患者向けのたんぱく質調整米事業に注力しています。CKD患者は、食事の際にたんぱく質、リン、カリウムの摂取制限があり、一般的なお米では症状を悪化させてしまう恐れがあります(一般的なお米には6~7%程のたんぱく質が含まれる)。そこで、当社ではお米に特殊な加工を施してたんぱく質の量を調整した商品を販売しています。

一 台湾における事業内容について

当社台湾拠点は、たんぱく質調整米「真粒米」の生産販売を目的として、2015年に台湾南部にあるグリーンバイオ

パーク(屏東農業生物技術園區:PABP)に設立されました。2016年の3月14日には、工場の竣工式を迎えることができました。台湾進出に当たっては、台湾の大手米穀事業者であるユニオンライス社、たんぱく質調整に用いる酵素技術を有する長田産業(兵庫)と合弁の形をとっています。台湾のユニオンライス社からは、地場のお米の調達で協力いただいています。現在は、本格的な真粒米の生産及び販売開始に向けて、生産ラインの試運転や、販売協力会社の選定等を行っています。第一期工場が本格稼働すると、月間生産能力は50トンになる予定です。また同時に、高雄医業大学付属病院と共同で特殊栄養食品認証を得るための臨床実験を行っており、2016年末の認証取得に向けて研究を行っています。

一 台湾の市場環境について

たんぱく質調整米事業を台湾展開するに当たり、主に3点を重視しました。1点目は台湾が米を主食としている点です。たんぱく質調整米に関心を持っていただくためには、まずはお米を食べる文化が根付いている必要があります。その点台湾は間違いなく対象となります。2点目は、台湾においてCKD発症による人工透析を実施している人の比率が高いことが挙げられます。腎臓病になる原因は様々ですが、食生活の欧米化や近年の慢性的な運動不足等による高血圧や、糖尿病の合併症として腎臓病を発症するケースも多

日本企業から見た台湾

く、台湾では十分なたんぱく質調整米のニーズがあると考えました。3点目は、食事療法に対する市場環境が整いつつある点です。病院における食事療法は、日本では一般的ですが海外では浸透しておらず、病院食の献立を作る際に専属の栄養士がついていないケースも多い状況です。台湾では、近年栄養士による病院食の栄養管理が徹底され始めていますが、日本で一般的にCKD患者が必要とする食材が提供されていない状況です。そこで、当社の商品にニーズがあると考えました。

これらの理由の他にも、中国への事業展開を検討する際のテストマーケティングとして位置づけられることや、中国への輸出を台湾から行うメリットを検討し、台湾への進出を決めました。

貴社の強み及び市場拡大に向けた課題について

当社の強みは、たんぱく質調整米の品質及び米の加工技術です。CKD患者向けのたんぱく質調整米は、一般的なお米に特殊な酵素を溶かした液体を用いてたんぱく質を低減させる加工を施すことで製造されます。ただし、この加工を施すことにより、開封後に冷蔵保存をする必要があることや、一度炊いたお米を冷凍すると、粒と粒がくっ付きひと塊になってしまう等、保存方法に弱点がありました。また、味や食感も一般的なお米とちがう点も課題でした。しかし、数年前から長田産業と共同開発した技術を用いると、味や食感が大幅に改善され、また保存方法もより一般的なお米に近づけることができました。

一方で、販売拡大に向けては課題もあります。まずは、ターゲット層が非常に限られる点です。一般的にCKDの患者は成人人口の1割程だといわれていますが、更にたんぱく質調整米を必要としている人はその中でも0.5～1%程です。CKDの病状の進行度合はステージ1～5までありますが、末期患者は人工透析や臓器移植に頼らざるを得ず、また初期の患者は自覚症状がなく、そもそも治療が行われないことも多い状況です。そこで、末期になる前の患者に対して、たんぱく質調整米による食事療法が病状の進行を抑えるのに効果的であるということ幅広く理解していただく必要があります。

2点目の課題として、価格が通常のお米の5倍程になってしまう点が挙げられます。現時点では販売量に限りがあるため、価格を高く設定する必要がありますが、今後CKD向けの食事療法が認識されて需要が拡大することで加工コストを下げしていく必要があります。また、お米の調達方法を見直すことや海外で加工を行うなどのコストダウンの努力も今後一層重要になると考えています。

今後の事業展望

短期的には、まずは台湾拠点で加工した真粒米を代理店を通じて台湾全土に訴求していくことが目標です。台湾は、市場自体が未成熟なため、潜在的なマーケットを地道に掘り起こしていく必要があります。また、同時に少しずつニーズが出てきつつある中国への展開も早い時点で道筋をつけていきたいと考えています。中国市場は台湾と比較してCKD患者の母数は圧倒的に大きいと、台湾拠点を足掛かりとして事業展開を検討しています。

中長期的には東南アジアへの展開も検討しています。特にベトナムは急速に経済成長しており、有望な市場だと考えています。ただし、経済が成長するだけでなく医療水準やインフラが整備されていることがたんぱく質調整米訴求の重要な条件となっているため、それらの環境も常に動向を見守っていく必要があります。特に、台湾がTPPに加入できれば、お米の安さ、加工費(電気・水・人件費)の安さから日本への真粒米の逆輸入も十分検討する余地はあると考えています。

ありがとうございました

台湾木徳生技(股)有限公司の基本データ

会社名	台湾木徳生技股份有限公司
董事長	平山 惇
設立	2015年3月
資本金	1億元
従業員数	5名(内、日本人3名)
事業内容	たんぱく質調整米の製造販売および関連製品の研究開発等

注) 2016年6月時点のデータによる
出所) 公開資料及びヒアリングよりNRI整理